

令和4年台風第14号による被害の概況

- 令和4年台風第14号は、記録的な勢力を保ったまま九州に上陸して日本列島を縦断したものの、平成30年7月西日本豪雨や、令和元年東日本台風と比較すると、総降水量は少なく、観測史上1位を更新した観測点数も少なかった。
- また、台風接近に伴う降雨予測に基づき、過去最多(129ダム)の事前放流を行うことができた。
- さらに、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策や、5か年加速化対策等によって、河道掘削(九州地方では、約1,090万m³(ダンプトラック約220万台))や堤防整備等の事前防災対策を実施していた。
- この結果、甚大な被害が発生した最近の水害と比べ、氾濫等発生河川数や土砂災害発生件数等は少なかったものの、総降水量や短時間降水量が多ければ、大規模な浸水被害が発生していた可能性。

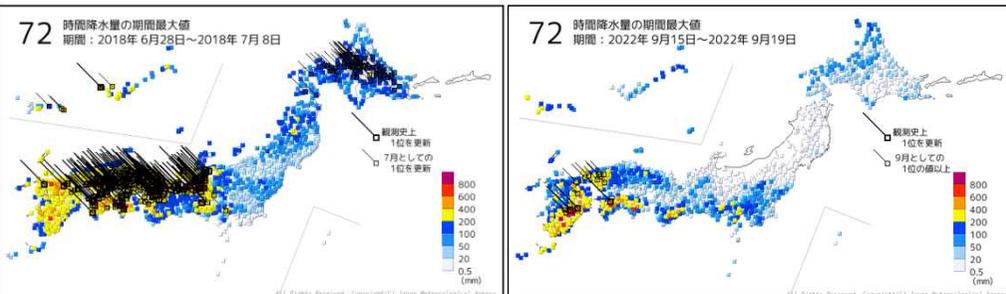
1 台風第14号の雨の状況

【近年発生水害と今回の大雨における降水量の観測史上1位の値を更新した観測点数の比較】

		平成30年7月 西日本豪雨	令和元年 東日本台風	令和4年8月3日 からの大雨	令和4年9月 台風第14号
全国の アメダス 総降水量	期間 (日数)	6/28~7/8 (11日間)	10/10~10/13 (4日間)	8/1~8/14 (14日間)	9/15~9/19 (5日間)
	総和 全国	約24.6万mm	約10.2万mm	約11.3万mm	約7.7万mm
72時間降水量		123地点	53地点	37地点	3地点
24時間降水量		77地点	103地点	31地点	13地点
12時間降水量		49地点	120地点	35地点	14地点
1時間降水量		14地点	9地点	36地点	0地点

※ 総降水量は、全国1,032地点のアメダスで集計

【近年発生水害と今回の大雨における72時間降水量の比較図】



平成30年7月西日本豪雨

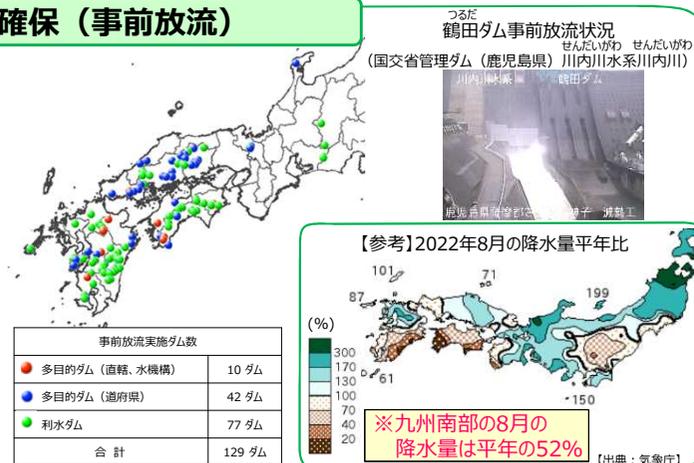
令和4年台風第14号

2 ダムの洪水調節のための容量確保（事前放流）

	令和4年9月 台風第14号
事前放流したダム での確保容量 (国交省所管 ダム+利水ダム)	約4.2億m ³ (129ダム) (ハツ場ダム約5個分)

上記に加え、既に確保していた事前放流の容量約2.7億m³
(94ダム)(ハツ場ダム約3個分)

※治水協定を締結した事前放流の対象ダムは全国で1,436ダム(令和4年9月時点)となっており、これらの対象ダムの事前放流により、最大でハツ場ダム約58個分の容量が確保可能
※事前放流の実績としては、令和2年台風第10号では76ダム、令和3年8月大雨では69ダムで事前放流を実施



事前放流実施ダム数

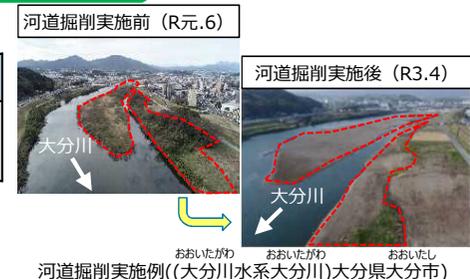
多目的ダム(直轄、水機構)	10 ダム
多目的ダム(道府県)	42 ダム
利水ダム	77 ダム
合計	129 ダム

3 3か年緊急対策、5か年加速化対策等による河道掘削

【河道掘削量 (H30~R3)】

九州地方	(参考) 全国
約1,090万m ³ の河道掘削を実施 (ダンプトラック約220万台)	約7,840万m ³

※10tダンプトラックを想定し、1台あたりの積載量は5m³として換算



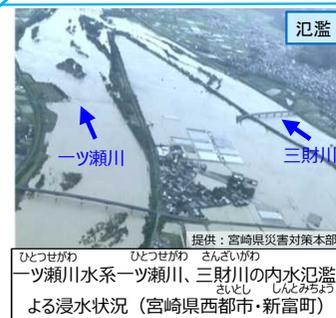
河道掘削実施例(大分川水系大分川)大分県大分市

4 近年発生水害と今回の大雨における被害の比較

		平成30年7月 西日本豪雨	令和元年10月 東日本台風	令和4年8月3日 からの大雨	令和4年9月 台風第14号
氾濫等発生河川数*		315河川	330河川	156河川	25河川
土砂災害発生件数		2,581件	952件	203件	33件
道路の被災通行止め 区間数	高速道路	34区間	40区間	20区間	5区間
	直轄国道	81区間	63区間	16区間	7区間
鉄道施設被害路線数		18事業者54路線	14事業者33路線	5事業者11路線	2事業者7路線

※ 氾濫や河川沿いの内水などの被害が確認された河川数。

※ 数値は令和4年9月22日時点



提供：宮崎県災害対策本部
ひとつせがわ
ひとつ瀬川水系一つ瀬川、三財川の内水氾濫による浸水状況(宮崎県西部市・新富町)



おたがわ
おたがわ
太田川水系太田川の溢水状況(広島県広島市)



ごせがわ
おおせがわ
五ヶ瀬川水系大瀬川の洪水状況(宮崎県延岡市)